

ガートナー利用ポリシー

更新日
2016年4月15日

ガートナー利用ポリシー

ガートナー製品のお買上げありがとうございます

このたびはガートナー・リサーチのライセンスをご購入ください、どうもありがとうございました。本書はガートナー・サービスの利用について、特にライセンス・ユーザーを対象に編集されたガートナー利用ポリシーです（以前の「ガートナー・サービスご利用のガイドライン」）。以前のガイドラインから内容に変更はありません。今後も当 Web サイトへアクセスしてご利用いただく上で、タイトルが変更されているという点にご留意ください。本ガートナー利用ポリシーは、分かりやすいルールと実際的なシナリオを通じて、お客様が契約の範囲内でガートナー・サービスを活用し、ガートナーとの関係から最大限の価値を手にできるように支援します。

本書では、具体的に下記の分野についてガートナー利用ポリシーを説明します。

- 社内（顧客企業）におけるリサーチ・ドキュメントの利用
- 社外（顧客企業外部）におけるリサーチ・ドキュメントの利用
- Analyst Inquiry（お問い合わせサービス）
- ユーザー名およびパスワード

基本ライセンス。本ガートナー利用ポリシーは、ガートナー・サービスを購入したライセンス・ユーザーへ一般的に適用される基本ライセンスとなるものです。基本ライセンスとは異なる権利が定義されているガートナー製品については、当該製品に規定されている条項が適用されます。ガートナーは、定期的に本ガートナー利用ポリシーを更新する権利を有しています。

製品固有の利用状況。ガートナーが継続して製品ポートフォリオの拡充を進めていく中で、利用に関する基本的なパラメータでさえも、お客様が購入したサービスのタイプによって若干異なる場合があります。ライセンス・ユーザーが、購入したサービスに対して本ガートナー利用ポリシーの利用パラメータがどのように適用されるのかが不明な場合は、アカウント・エグゼクティブにお問い合わせください。

サービス利用状況のモニタリング。ライセンス・ユーザーによるガートナー・サービスの利用も含め、ガートナーはガートナー Web サイトにおけるユーザーの挙動をモニタリングしています。本ガートナー利用ポリシーに抵触している兆候が認められた場合、ガートナーはお客様に本サービスの利用状況について調査し、その利用が契約の規定に準拠していることを証明する情報の提供をお願いする場合があります。ポリシーに抵触している場合、ガートナーはその旨を顧客企業に通知します。顧客企業は、係る通知の受領から 30 日以内に当該抵触行為を是正する必要があります。30 日の猶予期間中には正されなかった場合、ガートナーはサービス提供の終了（またはアクセスの制限）もしくはサービス契約全体を終了する権限を有しています。実際的なシナリオは、「[ガートナー利用ポリシー](#)」をご覧ください。ガートナーは、お客様からのフィードバックおよびビジネス・ニーズを反映させるため、これらの実際的なシナリオを定期的に更新する権限を有しています。ご不明な点は、電子メールusage.guidance@gartner.comまでお問い合わせください。

ガートナー利用ポリシー

社内(顧客企業)におけるリサーチ・ドキュメントの利用

ライセンス・ユーザー以外がガートナー・リサーチ・ドキュメントにアクセスし、閲覧することは禁じられています。ライセンス・ユーザーが自分の職務を行うために個人利用する限り、契約したリサーチ・サービスに規定されている範囲内であれば、アクセスして閲覧できるドキュメントの数に制限はありません。

ライセンス・ユーザーは自分の職務で個人利用するためにガートナー・リサーチ・ドキュメントのハードコピーを1部のみ出力することができますが、基本的にガートナー・リサーチ・ドキュメントの共有は禁じられています。

- 個々の非ユーザーとの共有
- 電子メール、インターネットへのポスティング、その他の情報ストレージや検索可能なシステムを通じた共有

職務を遂行する上でガートナー・リサーチを社内の他のユーザーと共有する必要がある場合は、下記のことを行えます。

- ライセンス・ユーザーは、ガートナー・リサーチ・ドキュメントの内容を自分で簡単にまとめて*、要約を自分のプロジェクト・チームや役員レベルの意思決定者へ配布することができます(出典がガートナーであることを明記)。
- 社内向けのレポートやプレゼンテーションに、ガートナー・リサーチ・ドキュメントから少量の抜粋・引用*(数行の文(5文以内)、1段落、具体的な図表など)を含めることができます(出典がガートナーであることを明記)。

*備考: 下記の条件が満たされている場合に限り認められます。

- 組織的に行ったり日常的に行ったりしないこと(たとえばライセンス・ユーザーがガートナー・リサーチのサマリーや抜粋を定期的に作成して配布したり、非ユーザーがガートナー・リサーチのニーズを満たすためにライセンス・ユーザーへ定期的にコンタクトする社内プロセスを利用したりする場合など)。
- 対象が社内ユーザーのみで15人以内に限定されていること。
- 意図的であるか結果的であるかを問わず、ユーザー・ライセンスの追加購入を避けることを目的としていないこと。

ガートナー・リサーチを社内で利用する場合

ライセンス・ユーザーの個人的な利用または同僚による利用

許諾される例

ライセンス・ユーザーであるドーンは、自社が購入したサービスに規定されている範囲内で、アクセスして閲覧できるガートナー・リサーチ・ドキュメントの数に制限はありません。また、ドーンは社内で自分の職務を行う際に個人的な利用を目的として、任意のガートナー・リサーチ・ドキュメントのハードコピーを1部出力することができます。

ライセンス・ユーザーであるフランクが、あるガートナー・リサーチ・ドキュメントを閲覧し、これを同僚のジョアンおよびラリーと共有したいと考えた場合、ガートナー・リサーチ・ドキュメント・ページのアイコン・バーにある「SHARE」オプションを使用して共有できます。ジョアンとラリーがこのガートナー・リサーチ・ドキュメントにアクセスするためには、フランクと同じレベルの権限を有するライセンス・ユーザーでなければなりません。ドキュメントの受取人がライセンス・ユーザーであるかどうかに関係なく、ガートナーの基本ルールとして、ガートナー・リサーチ・ドキュメントのPDFファイルのダウンロードおよび転送は禁じられています。

ビジネス・ミーティングで少人数の同僚へサマリーを配布

許諾される例

ライセンス・ユーザーであるフランクは、戦略的コスト管理について興味あるガートナー・リサーチを見つけ、これをビジネス・ミーティングで同僚10名に伝えたいと考えた場合、ガートナー・リサーチ・ドキュメントの完全版をコピーして配布するのではなく、主なポイントをメモに要約し、同僚に提供することができます。ただし、このようなサマリー作成を組織的に行ったり日常的に行ったりしないこと(ガートナー・リサーチのサマリーを定期的に作成して配布するなど)、配布対象は社内に限定することが条件となります。

許諾されない例

所属する部門で唯一のライセンス・ユーザーであるドーンは、ガートナー・リサーチ・ドキュメントを閲覧してそのサマリーを(1)定期的に作成し、(2)IT部門内の数多くのユーザーへ配布できる唯一の人間です。このように(1)組織的または日常的にサマリーを作成し、(2)15名のプロジェクト・チームを超える大勢の非ユーザーへ配布することは、禁じられています。日常的にではなく機会に応じて行うことは許諾されていますが、上記のドーンの例では日常的かつ組織的に行われています(追加のユーザー・ライセンスを購入することなく同じ効果を得られるため)。具体的なサービスについて、どのレベルまで要約が認められているのかが不明な場合は、ガートナーのアカウント・エグゼクティブにお問い合わせください。

社内プロジェクト用の抜粋／引用

許諾される例

非ユーザーであるヘンリーが、プロジェクトで同僚のドーン（ライセンス・ユーザー）の助言を求めた場合、ドーンはガートナー・レポートからの少量の抜粋を含め、ガートナー・リサーチ・ドキュメントから得た情報の一部を簡単なメモとしてヘンリーに渡すことができます。このとき、抜粋および引用部分の出典がガートナーであることを適切に示す必要があります。

ライセンス・ユーザーであるドーンが、自分の属するプロジェクト・チームのミーティングを予定し、PowerPoint のプレゼンテーションにガートナー・リサーチ・ドキュメントから 2 文の引用文を 1 つとグラフィックを 1 つ含めました。このときドーンは、「ガートナー著作権物の使用・引用に関するポリシー」のセクション 6.1 にしたがい、これらの出典がガートナーであることを適切に表記しました。

許諾されない例

ライセンス・ユーザーであるフランクは、非ユーザーの同僚向けに毎週発行している「IT ニュースレター」に購入したガートナー・サービスを利用したいと考えています。具体的に、ニュースレターの読者層が興味を持ちそうな話題について、様々なガートナー・リサーチ・ドキュメントからの抜粋および引用を含めるつもりです——これは許諾されません。ガートナー・リサーチからの抜粋と引用は非定期的な社内レポートで使用することは認められていますが、組織的または日常的に行なうことは禁じられています（追加のユーザー・ライセンスを購入することなく同じ効果を得られるため）。具体的なサービスについて、どのレベルまで抜粋および引用が認められているのかが不明な場合は、ガートナーのアカウント・エグゼクティブにお問い合わせください。

ガートナー・リサーチ・ドキュメント全体を契約の規定に従った形で同僚と共有

許諾される例

ライセンス・ユーザーであるドーンは、自社経営陣の戦略的イニシアチブに取り組んでいます。この短期プロジェクトの一環として、適切なガートナー・リサーチを役員と共有する必要があります。購入した製品の契約において、ドーンには社内で決まった数のドキュメントを共有する権利が付与されているので、このリサーチを役員と共有できます。

ライセンス・ユーザーであるフランクが、あるガートナー・リサーチ・ドキュメントを閲覧し、これを同僚のジョアンおよびラリーと共有したいと考えた場合、ガートナー・リサーチ・ドキュメント・ページのアイコン・バーにある「SHARE」オプションを使用して共有できます。ジョアンとラリーが「SHARE」を使用してこのガートナー・リサーチ・ドキュメントにアクセスするためには、フランクと同じレベルの権限を有するライセンス・ユーザーでなければなりません。ドキュメントの受取人がライセンス・ユーザーであるかどうかに関係なく、ガートナーの基本ルールとして、ガートナー・リサーチ・ドキュメントの PDF ファイルのダウンロードおよび転送は禁じられています。

ライセンス・ユーザーのヘンリーは、クラウド・コンピューティングの社内利用について調査する新しいチームを任せられました。彼は次のプロジェクト・ミーティングでいくつかのガートナー・リサーチ・ドキュメントをチーム・メンバーと共有したいと考えました。共有したい各ガートナー・リサーチ・ドキュメントには、「This Research note is restricted to the personal use of henry.campbell@company.com (本リサーチ・ノートは henry.campbell@company.com の個人利用に限定)」というウォーターマークが記載されています。ヘンリーが購入したサービスでは社内で 10 のガートナー・リサーチ・ドキュメントを共有することが認められて

いるので、彼はこのウォーターマークを気にすることなく、該当する「サービス説明書」の規定に従ってこのガートナー・リサーチ・ドキュメントを使用しました。

許諾されない例

年間を通じて多くのプロジェクトを担当している非ユーザーのサリーは、同僚でライセンス・ユーザーのフランクへ頻繁に情報提供を求めてきます。フランクは gartner.com でサリーのプロジェクトのトピックをリサーチし、適切なガートナー・リサーチ・ドキュメント(1 件または複数件)の完全版をサリーに転送しました。フランクがサリーに転送した各ガートナー・リサーチ・ドキュメントには、「This Research note is restricted to the personal use of frank.smith@company.com (本リサーチ・ノートは frank.smith@company.com の個人利用に限定)」というウォーターマークが記載されています——これは許諾されません。フランクが購入した製品ではこのような共有が認められておらず、またサリーはライセンス・ユーザーではありません。サリーがガートナー・リサーチ・ドキュメントの完全版を閲覧するためには、同社担当のアカウント・エグゼクティブに連絡し、追加のユーザー・ライセンスを購入する必要があります。アカウント・エグゼクティブは、サリーのニーズに合わせた最適なソリューションを提案します。

ライセンス・ユーザーであるフランクは、自分のプロジェクト・チームと共有するつもりのプレゼンテーションの一部として、ガートナー・リサーチ・ドキュメントから複数のグラフィックを抜粋し使用すると共に、プレゼンテーションの付録にはドキュメントのページ全体を挿入しました——これは許諾されません。ガートナーは、リサーチ・ドキュメントから大規模にコピーしたり共有したりすることを禁じています。ただし、「ガートナー著作権の使用・引用に関するポリシー」のセクション 6.1 にしたがい出典がガートナーであることを適切に表記することを条件に、社内利用を目的としてガートナー・リサーチから数行程度のテキストおよび単一のグラフィックを抜粋して使用することは認められています。別の方針として、リプリント・ライセンスを購入することで、その契約条項の規定に基づいてドキュメント全体を利用することができます。

ライセンス・ユーザーのサリーは部門内(または社内)で唯一のライセンス・ユーザーのため、同じ組織内の非ユーザーから、それぞれの個人的な業務に使用するためにガートナー・リサーチからのサマリーや抜粋・引用、簡単なデータ・ポイントを提供することを求められます。サリーは、ライセンス・ユーザーとして非定期的なガートナー・リサーチからの抜粋・引用やサマリーの作成のみが認められています。サリーによる社内または部門内の非ユーザーへの抜粋・引用およびサマリーの提供は、日常的な活動であると見なされます(社内のビジネス・プロセスとして、非ユーザーがガートナー・リサーチのニーズを満たすために日常的にサリーに依頼できる環境が確立されている、または非ユーザーからの 1 回のみの依頼といえども日常的な活動であると見なされるほど件数が多いため)。意図的であるか結果的であるかを問わず追加のライセンスを購入することなく同じ効果を得られるため、これらは許諾されません。

ガートナー・リサーチ・ドキュメント全体を契約の規定に従った形で部門または社内全体に公開

許諾される例

ライセンス・ユーザーであるフランクが、自社がビジネスを展開している技術分野のガートナー・マジック・クアドラントを見たところ、自社が「リーダー」クアドラントに置かれていました。このマジック・クアドラントを自社のパブリック Web サイトで公開したいと考えたフランクは、マジック・クアドラントのリプリント・ライセンスを購入しました。ガートナーは書式設定されたマジック・クアドラントをフランクに送付しました。フランクは、リプリント・ライセンスの規定にしたがって、このマジック・クアドラントを自社のインターネット・サイトに公開することができます。

許諾されない例

ライセンス・ユーザーであるフランクは、自分の部門で新しいテクノロジの調査を担当しています。彼は関心のあるガートナー・リサーチ・ドキュメントを読み、このドキュメントを共有サーバーのチーム・フォルダに置いたり、PDF版を添付したグループ・メールを送信したりしています——これは許諾されません。ライセンス・ユーザーが、ガートナー・リサーチ・ドキュメントのPDF版を部門や全社規模のサーバーやチーム共有フォルダにアップロードすることは禁じられています。この場合、フランクは対象のガートナー・リサーチ・ドキュメントのサマリーをチーム用に作成することができます。また、そのガートナー・リサーチ・ドキュメントのリプリント・ライセンスを購入する方法もあります。

ラップトップやオフィス・コンピュータ/デバイスへの格納

許諾される例

ライセンス・ユーザーであるドーンは出張の多い仕事をしているため、外出先でも自分のラップトップ・コンピュータからガートナー・リサーチ・ドキュメントにアクセスしたいと考えています。ライセンス・ユーザーは、個人使用を目的としてガートナー・リサーチ・ドキュメントの PDF 版をダウンロードすることが認められています(gartner.com でオプションの 1 つとして PDF 版をダウンロードできる場合)。ただし基本ルールとして、顧客の社内外を問わず、また受取人がライセンス・ユーザーであるかどうかに関係なく、他者への配布を目的としたライセンス・ユーザーによる PDF 版のダウンロードは禁じられています。

ライセンス・ユーザーであるフランクは、あるガートナー・リサーチ・ドキュメントに関心を持ち、後で読みたいと思いました。彼は出張が多いので、後でオフラインで読めるようにこのガートナー・リサーチ・ドキュメントを自分のラップトップに保存しました。フランクが個人で使用する限り(再配布をしない限り)、このように保存することは認められています。その後ライセンスを更新しない場合、デバイスに保存したすべてのガートナー・リサーチ・ドキュメントは削除しなければなりません。

許諾されない例

ライセンス・ユーザーであるサリーは IT 部門に属する管理者で、IT 部門へのリサーチのアクセス提供を担当しています。彼女は重要なプロジェクトに取り組んでいる IT 部門の他のユーザーに、ガートナー・リサーチ・ドキュメントを提供したいと考え、数多くのガートナー・リサーチ・ドキュメントを自分のデスクトップにダウンロードして保存しています——基本ルールとして、ガートナー・リサーチ・ドキュメントのダウンロードおよび社内のストレージおよび検索可能なシステムへの保存は禁じられています(すなわち複数部門で共有しているサーバー、全社規模のインターネットや掲示板、SharePoint、他の情報ストレージおよび検索システムなど)。

ライセンス・ユーザーであるフランクは、予算の関係でガートナーのライセンスを更新しないことにしました。現在のライセンス契約期間が終了する 2 週間前、フランクは gartner.com 全体を詳細にチェックし、今後の参考用に必要となる数多くのガートナー・リサーチ・ドキュメントをダウンロードしました——ガートナー・リサーチ・ドキュメントを含め、ガートナーが提供するすべてのリサーチ内容はガートナーの所有物で、その著作権もガートナーが有しています。顧客企業は、サービス契約に規定されているライセンス契約期間内において、ガートナー・リサーチへアクセスし、閲覧することが認められています。ライセンス契約期間の終了に伴い、ライセンス・ユーザーがガートナー・リサーチを利用したり保存したりすることは認められず、社内のシステムに保存しているすべてのガートナー・リサーチ・ドキュメントを削除しなければなりません。

購入した製品と本ガイドラインに規定されている権利が異なる場合

許諾される例

ライセンス・ユーザーであるサリーは Gartner for IT Leaders Advisor のライセンスを契約しましたが、その「サービス説明書」の規定が本ガートナー利用ポリシーに記載されている基本ライセンスと異なっている点が気になっています。ガートナー製品の中には、本ガートナー利用ポリシーの基本ライセンスとは異なる権利が認められている製品もあります。サリーが契約した製品のサービス契約の期間内は、その製品の規定が適用されます(また、ガートナー利用ポリシーの基本ライセンスに優先して適用されます)。

ガートナーの市場予測データや市場シェア・データを活用

許諾される例

ライセンス・ユーザーであるビルは市場情報の責任者で、当四半期のみについて(1回だけ)、インドPC市場最大の競合他社の当四半期の業績を示すガートナー・データを、社内のインド担当マネージャーと共有したいと考えています。ビルはガートナーからの適切な情報を抜粋・引用して(「自社名+社外秘」と記載)社内のインド担当マネージャーのみと共有し、電子メールでインド担当マネージャーに送信するつもりです。これはガートナーの市場シェア・レポートからのサマリー・レベルの小規模なデータの抜粋・引用で、日常的に行われるものではなく(1回のみ)、また非ユーザーによる利用も(インド担当マネージャー)日常的なものではないので(1回のみ)、問題ありません。

許諾されない例

所属するマーケティング部門で唯一のライセンス・ユーザーであるスザンは、会社全体の競合分析情報の収集を1人で担当しています。彼女は主に製品管理の担当役員を支援していますが、役員からは(1)サマリーのレベルを超えたデータの抜粋・引用、(2)社内のデータハウスや他の社内システムへのガートナー市場シェア・データのインポートまたは入力、(3)社内インターネットや外部Webサイトへの、ガートナー市場シェア・データのデータセットまたはデータのサマリーもしくは抜粋・引用のアップロードを繰り返し頼まれます——これらのいずれも許諾されません。なぜなら、ガートナー市場シェア・データの組織的または日常的な共有、社内データ・ウェアハウスまたは他のシステム/ツールへのインポート、社内インターネットまたは外部Webサイト(それぞれ(1)、(2)、(3)に対応)を禁じるルールに抵触するからです。ガートナー市場シェア・データまたは市場予測データの適切な利用方法については、電子メール usage.guidance@gartner.comまでお問い合わせください。

注意:これは基本ライセンスで、具体的な内容は購入した製品ごとに異なります。詳細は[こちら](#)をご覧ください。

ガートナー利用ポリシー

社外(顧客企業外部)におけるリサーチ・ドキュメントの利用

ライセンス・ユーザー以外がガートナー・リサーチ・ドキュメントにアクセスし、閲覧することは禁じられています。ライセンス・ユーザーが自分の職務を行うために個人利用する限り、契約したリサーチ・サービスに規定されている範囲内であれば、アクセスして閲覧できるドキュメントの数に制限はありません。

ガートナー・リサーチ・ドキュメントの (a) 社外との共有、(b) 電子メール、インターネットへのポスティング、その他の外部情報ストレージや検索可能なシステムを通じた共有は禁じられています。

職務を遂行する上でガートナー・リサーチを社外の他のユーザーと共有する必要がある場合は、下記のことを行えます。

- 事前にガートナーから許諾を取得すると共に(許諾申請は電子メール quote.requests@gartner.com)、「[ガートナー著作権の使用・引用に関するポリシー](#)」に準拠することを条件に、抜粋・引用またはドキュメントへの参照情報を提供できます。
- リプリント・ライセンスの外部使用に関する詳細は[こちら](#)をご覧ください。

ガートナー・リサーチ利用のベスト・プラクティス

ガートナー・リサーチを社外で利用する場合

ガートナーが許諾した抜粋／引用の社外利用

許諾される例

ライセンス・ユーザーであるフランクは、ローカルのビジネス・セミナーでプレゼンテーションを行う予定で、その PowerPoint にガートナー・リサーチ・ドキュメントからの引用を記載したいと考えています。フランクはあらかじめ「[ガートナー著作権の使用・引用に関するポリシー](#)」の内容を確認し、引用の使用について許諾を得るために quote.requests@gartner.com メールを送信しました。ガートナーから利用許諾を取得したフランクは、非常に質の高いプレゼンテーションを行うことができました。

ライセンス・ユーザーであるフランクは、予定されている IT カンファレンスでガートナーのリサーチ内容からどの程度の抜粋・引用や参照情報を使用できるのか、「[ガートナー著作権の使用・引用に関するポリシー](#)」の内容を細かく精査しています。確実に規定を遵守するため、フランクはポリシーを確認すると共に quote.requests@gartner.com へ許諾申請の電子メールを送信しました。

許諾されない例

ライセンス・ユーザーであるドーンは自社プレスリリースの発行責任者ですが、ガートナーからの書面による事前の許諾なしにガート

ナー・リサーチをプレスリリースに記載しています —— これは許諾されません。「[ガートナー著作権物の使用・引用に関するポリシー](#)」では、ガートナーのリサーチ内容のすべての外部使用について、事前にガートナーから書面による許諾を取得しておくことが規定されています。ドーンは「[ガートナー著作権物の使用・引用に関するポリシー](#)」の内容を確認し、quote.requests@gartner.com に許諾申請の電子メールを送信する必要があります。

[ガートナー・リサーチ・ドキュメント全体のリプリント・ライセンスを購入し、社外と共有](#)

許諾される例

ライセンス・ユーザーであるローラはパブリック・リレーションズ部門の責任者で、先頃リプリント・ライセンスを購入しました。このライセンスに基づいて、ローラは自社が「リーダー」ニアドラントに置かれているマジック・ニアドラントを配布することができます。ローラは、既存顧客と見込客の両方にこの評価情報を提供したいと考えています。電子メールで使用するプロモーションの文言についてガートナー・リプリント部門からあらかじめ許諾を取得することで、ローラは既存顧客と見込客にリプリントへのリンクが設定された電子メールを送信できます。受信者は、このマジック・ニアドラント・レポートの完全版を閲覧できます。

ライセンス・ユーザーであるドーンはアナリスト関係管理部門のディレクターで、自社が高く評価されているガートナーのベンダー評価リサーチのリプリント・ライセンスを購入しました。ドーンは、ガートナーと契約したリプリント・ライセンスに規定されている条件にしたがって、リプリントを社外のユーザーと共有することができます。

許諾されない例

ライセンス・ユーザーであるフランクは、勤務先の広告会社で顧客にかわって技術トレンドのリサーチを担当しています。彼は、役立つガートナー・リサーチ・ドキュメントを見つけると、著作権が設定されている PDF 版を添付ファイルとして電子メールを顧客にグループで送信しています —— これは許諾されません。ガートナーは、ライセンス・ユーザーによるガートナー・リサーチ・ドキュメントの PDF 版を電子メールで転送することを禁じています。フランクはグループへの電子メールでガートナー・リサーチ・ドキュメントの完全版を共有することができませんが、(i) リプリント・ライセンスを購入し、契約に準拠してドキュメント全体を活用する、または (ii) 当該ガートナー・リサーチ・ドキュメントから重要な文を数行選び出し、グループへの電子メールで共有するという 2 つの選択肢があります。 (ii) の場合、選び出した数行の文を記載した電子メールのドラフトを許諾のため quote.requests@gartner.com に電子メールで送信する必要があります。ガートナーの [Quote Requests](#) 部門から許諾された引用文は電子メールで顧客へ送信することができますが、日常的 (ルーチン的に) 行うことは禁じられています。

注意:これは基本ライセンスで、具体的な内容は購入した製品ごとに異なります。詳細は[こちら](#)をご覧ください。

ガートナー利用ポリシー

Analyst Inquiry (お問い合わせサービス)

ライセンス・ユーザーは、Analyst Inquiry (お問い合わせサービス) を利用できます。

お問い合わせサービスのコール (または承認に基づく書面による回答) では、下記について問い合わせることができます。

- 会社に関する話題
- ガートナー・リサーチの解釈
- ビジネス関連のドキュメント (最高 20 ページまで) に関する基本的なテクノロジの評価など、ドキュメントの評価

備考：顧客企業の社内外を問わず、非ユーザーによるお問い合わせコールへの参加およびアナリストからの書面による回答のコピーの受信は禁じられています。疑義を避けるため、本文脈において非ユーザーによる「参加」とは、具体的に下記の行為を禁じています。

- セッションへの物理的な参加
- お問い合わせコールのセッションを聞くこと

本ガイドラインに規定されている基本サービスの範囲を超える Analyst Inquiry (お問い合わせサービス) 利用の権利は、購入したサービスごとに異なります。購入したサービスに固有の権利に関する詳細は、自社担当のアカウント・エグゼクティブにお問い合わせください。

Analyst Inquiry 利用のベスト・プラクティス

Analyst Inquiry (お問い合わせサービス) の利用

Analyst Inquiry はすべてのガートナー・サービスで利用できるのか

許諾される例

ライセンス・ユーザーであるジョージは、銀行および投資サービスのガートナー・リサーチ・ドキュメントを閲覧した後、このドキュメントを作成したガートナーの業界アナリストに、ドキュメントに記載されている情報について、二次的な質問をしたいと考えました。会社が契約した Industry Advisory Services ライセンスでジョージには必要なアドバイザー・レベルのアクセスが認められているので、ジョージは対象のガートナー業界アナリストとのお問い合わせコールのスケジュール設定を申し込むことができます。

許諾されない例

非ユーザーであるサリーは、どうすれば自社のネットワークおよび通信システムの再構築を実行できるのかについて、上層部にガイダンスを提供しなければなりません。彼女の同僚でライセンス・ユーザーのフランクは、彼の代わりにサリーが参加することを前提としてアナリストへのお問い合わせコールのスケジュールを設定しました——これは許諾されません。非ユーザーがアナリストへのお問い合わせコールに参加することは禁じられています。ただし、フランクがお問い合わせコールの内容をメモに取り、サリーと共有することは可能です。別 の方法として、この顧客企業がガートナーの自社担当アカウント・エグゼクティブに連絡し、サリーのユーザー・ライセンスを購入すれば、サリーは自分の権限でアナリストへのお問い合わせコールに参加できます。アカウント・エグゼクティブは、サリーのニーズに合わせた最適なソリューションを提案します。

お問い合わせコールに参加できるユーザー

許諾される例

ライセンス・ユーザーであるジョージが仕事をしているグループのメンバーは、全員が Industry Advisory Services のアドバイザー・レベルのライセンスを有しています。このグループが、世界の製造市場における競争力向上に関するプロジェクトを立ち上げることになり、その準備として主な課題への理解を深めることを目的に、ガートナーの業界アドバイザリ・アナリスト 1 名とのお問い合わせコールを設定したいと考えています。ジョージのグループのメンバー全員が、Industry Advisory Services についてアドバイザー・レベルのライセンスを有しているので、これは許諾されます。

ライセンス・ユーザーのドーンは IT Leadership Team ソリューションを購入しており、会社からリーダー・ライセンス・ユーザーに指定されています。ベンダー候補を評価中のドーンと IT Leadership Team のメンバーは、ベンダーの選択についてガートナー・アナリストに相談する必要があります。リーダーであるドーンは、自分と IT Leadership Team メンバーのためのお問い合わせコールのスケジュールを設定しました。すべての参加者が IT Leadership Team ライセンスを有しているので (Leader ライセンスと Member ライセンス)、これは許諾されます。

許諾されない例

ライセンス・ユーザーであるフランクは、年間を通じて様々なプロジェクトを担当するエンタープライズ・アーキテクトですが、同僚たちにもアナリストへのお問い合わせコールに参加してもらい、全員の意識の統一を図ると共に必要なすべての疑問への答えを出したいと考えています。時々フランクはアナリストへのお問い合わせコールに大人数の参加を促していますが、誰もコールへの参加条件であるアドバイザー・レベルのライセンスやワークグループ・ライセンスを有していません——これは許諾されません。購入したサービスについて適切なアクセス・レベルが規定されたライセンス・ユーザー以外がアナリストへのお問い合わせコールに参加することは禁じられています。アナリストへのお問い合わせコールに同僚たちも参加させたい場合は、アカウント・エグゼクティブに連絡し、ニーズに合った最適な解決策を相談する必要があります。

ライセンス・ユーザーであるサリーは IT 部門に属する管理者の 1 人で、現在 Industry Advisory Services のアドバイザー・レベルのライセンスを有しています。彼女は、主要なプロジェクトに取り組んでいる IT 部門の同僚のために、これらの同僚が非ユーザーなのか、またはアクセス・レベルの異なるライセンス・ユーザーなのかに関係なく、頻繁にアナリストへのお問い合わせコールを設定しています。サリー自身は、アナリストへのお問い合わせコールに参加しません——基本ルールとして、アナリストへのお問い合わせコールへの参加者は、ライセンス・ユーザー (ガートナーとの同種のサービスの契約で、お問い合わせサービスの利用が認められている

ライセンス・ユーザー)に限定されます。顧客企業の社内外を問わず、非ユーザーによるお問い合わせコールへの参加は禁じられています。

ライセンス・ユーザーであるドーンは、アナリスト関係管理の担当者で、新製品の立ち上げについて話し合うためにお問い合わせコールのスケジュールを設定しました。ドーンは、このお問い合わせコールに非ユーザーも参加させたいと考えています。ただし非ユーザーはセッションを聞くだけで、ガートナー・アナリストとやり取りはさせないと約束しました。—— これは許諾されません。理由は次の通りです。

- (1) お問い合わせセッションへの参加、同席、聞くことが認められているのは、対象サービスで適切なアクセス・レベルが認められているライセンス・ユーザーのみであるため。
- (2) 非ユーザーによる (a) お問い合わせセッションへの物理的な参加 (b) お問い合わせセッションを聞くことが禁じられているため。

ライセンス・ユーザーであるジョンは、製品開発の担当者で、外部の取引先と協業している製品戦略について話し合うためにお問い合わせコールのスケジュールを設定しました。ジョンは、このお問い合わせコールに、この取引先のライセンス・ユーザーであるサリーも参加させたいと考えています—— これは許諾されません。なぜなら、アナリストへのお問い合わせコールは、ガートナー・アナリストと単一の顧客企業からのライセンス・ユーザー間のみに限定して行われる戦略的な会話だからです。他の顧客企業のライセンス・ユーザーがアナリストへのお問い合わせコールに参加することは禁じられています。

お問い合わせコールから得られた知見の共有および共有できるユーザー

許諾される例

ライセンス・ユーザーであるジョージはプロジェクト・チームに割り当てられ、あるトピックについて追加情報を取得するためにガートナー・アナリストへのお問い合わせコールのスケジュールを設定しました。ジョージはアナリストへのお問い合わせコールの間にメモを取り、プロジェクト・チームのメンバーと共有することができます。アナリストへのお問い合わせコールの間に取ったメモをプロジェクト・チームの中で共有するには、それが組織的または日常的に行うのではなくこと、また配布する対象者が社内の人間に限られることが条件です (プロジェクト・チームのメンバー数は 15 名以内であること。16 名以上の場合は usage.guidance@gartner.com に問い合わせてください)。

ライセンス・ユーザーであるドーンが、現在検討中のベンダー選択のためにガートナー・リサーチ・ドキュメントを閲覧したところ、自分が候補にしているベンダーについてのリサーチが、ガートナーから過去 3 年間発表されていないことが分かりました。彼女はアナリストへのお問い合わせサービスを利用できる Gartner for IT Leaders のアドバイザー・ライセンスを有しているので、このベンダーの市場における動向について意見を聞くため、お問い合わせコールのスケジュールを設定しました。ガートナーのアナリストは、ベンダーの選択プロセスを支援する最新データと知見をドーンに提供します。ただし、顧客のベンダー選択においてガートナーのアナリストが具体的なベンダーを推奨することはできません。

ライセンス・ユーザーであるジョンは狭い地域に事業を展開している小規模企業の CIO で、ERP システムの導入責任者として興味深いガートナー・リサーチ・ドキュメントを読みましたが、このドキュメントに記載されているアドバイスが自社にあてはまるかどうか確信を持てませんでした。ジョンは Gartner for IT Executives CIO 製品を契約しているので、このガートナー・リサーチ・ドキュメントで公開されている情報以外にさらに詳細な話を聞くため、アナリストへのお問い合わせコールのスケジュールを設定しました。ガートナ

一のアナリストからの提案と情報によって、ジョンは質の高い豊富な情報に基づいて ERP システムを選択するための優れた知見を手にすることができます。

許諾されない例

ライセンス・ユーザーであるフランクは、重要な購買契約の検証に際し、アドバイスを受けるためガートナー・アナリストへのお問い合わせコールのスケジュールを設定しました。このコールには、フランクの会社が契約している外部のコンサルタント 1 名を同席させる予定です —— これは許諾されません。顧客企業の社内外を問わず、非ユーザーによるお問い合わせコールへの参加は禁じられています。ただし、フランクがガートナー・アナリストとのセッション中にメモを取り、これを外部のコンサルタントと共有することは問題ありません。

ライセンス・ユーザーであるドーンは、IT 部門のコスト削減のための様々な取組みの責任者を務めていますが、ガートナー・アナリストとのお問い合わせコールを実施し、自社のコスト削減戦略について細かい話し合いを行い、優先度および概算の所要期間を定義したいと考えています —— このニーズへ応えるためにはアナリストによる追加のリサーチや参考資料の作成が必要となるため、30 分のコール時間枠に収まりません。代替案として、ドーンは自社を担当しているガートナーのアカウント・エグゼクティブから、Strategic Advisory Services (SAS) Internal Advisory Session を購入し、利用できます。

ライセンス・ユーザーであるジョンは、Camera Depot (米国のカメラ・ショップ) およびデジタル一眼レフ・カメラの最新技術についての話をするためにアナリストへのお問い合わせコールのスケジュールを設定しましたが、Camera Depot とデジタル一眼レフ・カメラのどちらもガートナー・リサーチは網羅していません —— ジョンが指定するベンダーとトピックはガートナー・リサーチの対象範囲外なので、ガートナー以外の情報源にあたる必要があります。

アナリストへのお問い合わせコールの録音

許諾されない例

ライセンス・ユーザーであるフランクは、「グリーン IT 戦略」のガートナー・リサーチ・ドキュメントについてアナリストへのお問い合わせコールのスケジュールを設定しました。このコールで得た情報を後で社内の主なマネージャーたちと共有するため、コールの模様を録音したいと考えています —— ガートナーは、アナリストへのお問い合わせコールを録音することを禁じています。お問い合わせコール中に個人的にメモを取り、これを共有することはできますが、逐語的な録音は許諾されません。

購入した製品の Analyst Inquiry に本ガートナー利用ポリシーと異なる権利が規定されている場合

許諾される例

ライセンス・ユーザーであるジョージは Gartner for IT Executives CIO のライセンスを契約しましたが、その「サービス説明書」の規定が本ガートナー利用ポリシーに記載されている基本ライセンスと異なっている点が気になっています。ガートナー製品の中には、本ガートナー利用ポリシーの基本ライセンスとは異なる権利が認められている製品もあります。ジョージが契約した製品のサービス契約の期間内は、その製品の規定が適用されます。

アナリストからの書面による回答の共有および共有できるユーザー

許諾される例

ライセンス・ユーザーであるドーンは、アナリストへのお問い合わせ権限があるライセンスを契約しています。ドーンはアナリストへのお問い合わせコールではなく、書面による回答を送信するように要望しました。受信したアナリストからの回答は、CIOと共有するつもりです。ライセンス・ユーザーは、日常的に行うのではなく、また相手が少人数であることを条件に、アナリストからの書面による回答からの抜粋・引用や内容のサマリーを共有することができます。共有対象は顧客企業の社内に限定されます。

許諾されない例

ライセンス・ユーザーであるフランクは、アナリストへのお問い合わせ権限があるライセンスを契約しています。ベンダー選択プロセスの一環として、フランクはガートナーのアナリストに特定のベンダーとの取引について、賛成・反対意見を書面で回答するように求めました。フランクはアナリストからの回答を、対象のベンダーにも見せるつもりです——アナリストからの書面による回答は要求したライセンス・ユーザーのみによる使用を前提としたものであり、この場合のような使用方法は厳しく禁じられています。アナリストからの書面による回答を社外と共有することは、ガートナーのポリシーに対する違反となります。

ガートナー・アナリストとの間におけるベンダー契約内容の共有

許諾される例

ライセンス・ユーザーであるフランクは、契約内容の検証サービスを含むアナリストへのお問い合わせ権限があるライセンスを契約しています。フランクは、予定されているベンダーとの契約更新に際し、ガートナー・アナリストにその契約内容を検証してもらいたいと考えていますが、これがベンダーとの契約に規定されている機密保持条項に違反しないかどうか不安があります。一般的に、サービス契約の検証を外部の専門家に依頼することは広く認められている商習慣です。ただし、依頼する外部の専門家との間に機密保持契約が結ばれていなければなりません。フランクの企業とガートナーの間には機密保持契約が結ばれているので、ベンダーとの契約内容をガートナー・アナリストと共有することはまったく問題ありません。詳細は、[Contract Review サービス](#)をご覧ください。

アナリストへのお問い合わせコールを通じたドキュメントの評価

許諾される例

ライセンス・ユーザーであるフランクは、自社経営陣を対象にした戦略的マーケティング・プランのプレゼンテーションの準備を進めています。フランクは作成した 15 ページのプレゼンテーションをガートナー・アナリストにチェックしてもらい、アドバイスをもらいたいと考えています。

フランクのライセンスに適切なお問い合わせ権限が認められていれば、お問い合わせコールを通じて RFP (提案依頼) やマーケティング計画／事業計画、その他のドキュメントについてアナリストの評価とコメントを受けることができます (最高 20 ページまで)。

注意: これは基本ライセンスで、具体的な内容は購入した製品ごとに異なります。詳細は[こちら](#)をご覧ください。

ガートナー利用ポリシー

ユーザー名およびパスワード

ライセンス・ユーザーには一意のユーザー名およびパスワードが提供されますが、これらはライセンス・ユーザー専用で、社内外を問わず他者と共有することは禁じられています。

ただし、顧客企業内で別の個人へのユーザー名とパスワードの再割当てが認められる2つの例外があります。

- 現ライセンス・ユーザーの職務内容が大幅に変わり、ガートナー・サービスを利用する必要がなくなった場合、または
- 現ライセンス・ユーザーが顧客企業を退職した場合。

備考：ライセンス・ユーザーを別の個人に再割当する場合、新しいライセンス・ユーザーの所在地は元のライセンス・ユーザーと同じ国内でなければなりません。元のライセンス・ユーザーと新しいライセンス・ユーザーの国が異なる場合は、適切な解決方法についてガートナーの担当アカウント・エグゼクティブに問い合わせてください。

備考：契約社員や外注先へのライセンス割当てを希望する場合

- 契約社員はFTE(フルタイム当量)であること、すなわち電子メール・アドレスおよび会社の名刺が支給されると共に、常勤従業員としてのすべての職務が課せられていることが必要です(期間が決まっている派遣社員とは異なります)。
- 顧客企業は、「利用のガイドライン」を契約社員に提示すると共に、サービスの誤った利用や規定に抵触した場合に責任を負うことに同意するものとします。
- 契約社員は、ガートナー・サービスを自社(すなわちライセンスを発行した企業)に対してのみ利用することに同意しなければなりません。
- いかなる状況においても、ライセンス・ユーザーがそのユーザー名とパスワードを契約社員と共有することは禁じられています。
- 顧客企業と契約社員との契約期間の終了に伴い、上記に規定されているガートナー利用ポリシーに従い社内の別のユーザーへユーザー・ライセンスを再割当てしてください。

ユーザー名およびパスワード利用のベスト・プラクティス

ユーザー名には自分の電子メール・アドレスを使用すること

許諾される例

マーサは新たなライセンス・ユーザーに指定されました。ユーザー名はライセンス・ユーザー個人のものでなければならないので、マーサの会社のメンバーシップ管理者はマーサ自身の個人名または彼女が会社で使用している電子メール・アドレスに基づいてユーザー名を作成できます。

許諾されない例

新たなライセンス・ユーザーに指定されたジョン・ベイカーは、先日 Gartner Core Research のアドバイザー・レベルのライセンスを割り当てられました。ジョンは、自分のユーザー名を彼が所属する部門の名称か部門で使用している汎用の電子メール・アドレスにすることを希望しています——ユーザー名は対象のライセンス・ユーザー個人のものであり、企業の部門名や部門の電子メール・アドレスなどに由来する名称を定義することは禁じられています。このシナリオで許諾されるユーザー名は、「John Baker」または「john.baker@client_company.com」です。

既存ライセンスへの別の個人の割当て (ユーザー名とパスワードの切り替え)

許諾される例

ライセンス・ユーザーのジュディは顧客企業の IT マネージャーでしたが、転職で同社を退職することになりました。ガートナーは、顧客企業の要望に基づき、同社が指定する次のライセンス・ユーザー用に新しいユーザー名とパスワードを発行します。

ライセンス・ユーザーであるドーンはカナダを拠点にしている顧客企業の IT 部門から、社内の別の部署へ異動することになりました。移動先の部署では、ガートナー・リサーチを利用しません。ガートナーは、顧客企業の要望に基づき、同社が指定する次のライセンス・ユーザー用に新しいユーザー名とパスワードを発行します。ただし、この例の場合では、新しいライセンス・ユーザーもカナダ国内のユーザーであることが条件となります。

許諾されない例

ライセンス・ユーザーであるフランクは、同僚で**非ユーザー**のサリーが取り組んでいるプロジェクトを支援するため、自分のユーザー名とパスワードを使ってサリーが gartner.com にログオンできるようにしています——これは許諾されません。サリーが gartner.com へログオンするためにはサリー自身にユーザー・ライセンスが必要となるので、ガートナーで担当のアカウント・エグゼクティブに連絡し、追加のユーザー・ライセンスを購入しなければなりません。アカウント・エグゼクティブは、サリーのニーズに合わせた最適なソリューションを提案します。

ライセンス・ユーザーであるフランクは、IT 部門で同僚のサリーおよびケイトと共にプロジェクト・チームを組んでいます。サリーとケイトは**非ユーザー**です。フランクは、プロジェクト・チーム内のガートナー・ライセンスの管理を担当しています。フランクの職務に大きな変更はないものの、サリーにガートナー・リサーチへのアクセスを提供することが役立つと考え、プロジェクトの期間中は自分のユーザー名とパスワードをサリーに割当て、プロジェクトが完了したらサリーからフランクへユーザー名とパスワードを再割当てしました。その後、ライセンス・ユーザーであるフランクはあらためて自分のユーザー名とパスワードを**非ユーザー**のケイトに割当て、ガートナー・サービスへアクセスできるようにしました——これは許諾されません。1 つのガートナー・ユーザー・ライセンスをこのように組織的に使い回すことは禁じられています。

ライセンス・ユーザーの再割当ては、下記 2 つの状況においてのみ認められます。

- (1) 元のライセンス・ユーザーが顧客企業を退職したとき
- (2) 元のライセンス・ユーザーの職務内容が大幅に変わり、ガートナー・リサーチを利用する必要がなくなったとき

注意: これは基本ライセンスで、具体的な内容は購入した製品ごとに異なります。詳細は[こちら](#)をご覧ください。